

夢のかけはし

4年前に子どもが就職して生活が一段落したのをきっかけに、当時住んでいた鹿児島市の公民館で行われていた短期写真講座に参加したのが写真との出会いです。自宅にあった主人のデジタルカメラを片手に月2回、3か月間講座に通い撮影を行う上でのマナーや心構え、写真の見方、カメラの基本的なことなどを学びました。カメラを持つて外出すると、身近な物事を深く観察したり、新たな発見があったりと写真生活が楽しくなりました。講座が終了した後、写真のことをもっと知りたいと思い、講座の先生が代表を務める写真クラブに入会し、現在は月1回の勉強会に参加しています。

「かごしまフォト農美展」への応募のきっかけは、伝統行事などで知り合った先輩方が応募していた「農美展」の写真展を観に行ったこと。そこで深く感銘を受けたことや、周りからの勧めもあり、農業の写真を撮って応募してみました。1度目は、大崎町で撮影したごぼう畑の海外実習生の作品で、2度目は指宿市の実家近くで撮影した葉たばこの植え付け。入賞できればいいかなと応募した作品が、2年連続で最高賞である鹿児島県知事賞をいただくことができて大変驚きました。農作業中にもかかわらず撮影を快く引き受けて下さった農家の方々には今でも深く感謝しています。

「かごしまフォト農美展」で最高賞の
県知事賞を2年連続受賞した

べっぶ かずよ 別府 和代 さん

受賞の結果を現在住んでいる南町の方々も喜んでくださいました。コロナ禍で行事などが中止となる中、地域の方々に外出を促す機会を作ろうと町内会長や関係者の発案で、昨年12月に南町集落センターで写真展を開催。写真展には地域の方々が撮った写真を中心に自分の写真も展示していただき、写真を通じて地域の方々とながって交流を図ることができたと強く感じました。

コロナが収束したら、いろいろな伝統行事やイベントの撮影に出かけて思う存分シャッターを切りたいです。また、田舎ののんびりした日常を写真にたくさん収めていきたいです。

身近な魅力の
一瞬を求めて



【右】「第29回かごしまフォト農美展」で最高賞を受賞した作品「葉たばこの植え付け」

【左】南町集落センターで開催された写真展

指宿市出身で夫の転勤を機に2年前に市内に移住。特に伝統芸能を見ることが好きで、撮影した画像はその日のうちに長い時間をかけて確認。現像した写真もずっと眺めていると話す。(53歳)